

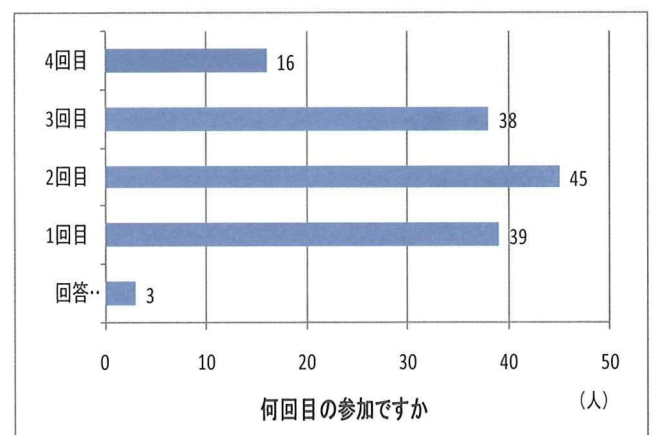
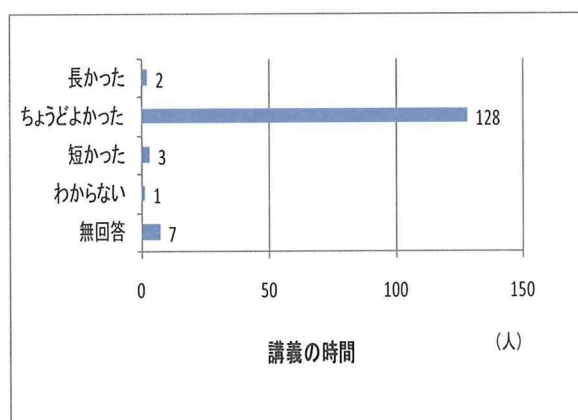
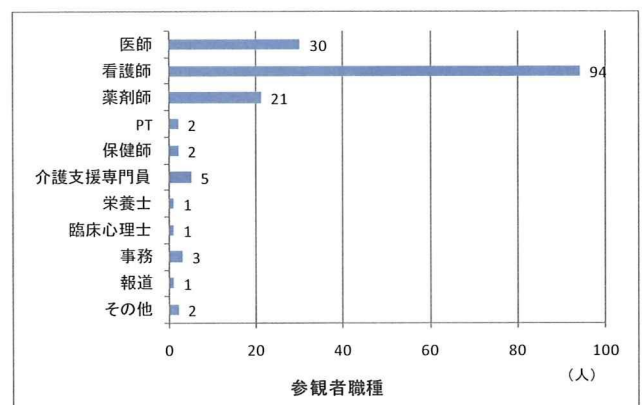
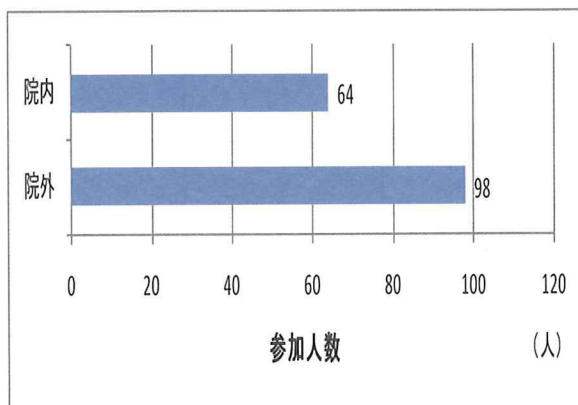
5月14日(水) 第4回緩和ケア・スキルアップ研修会 (資料5)

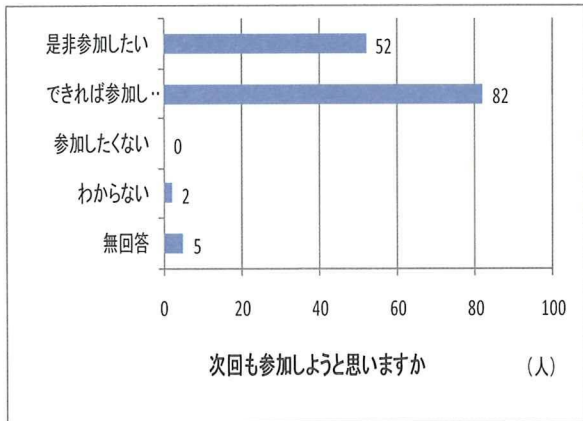
テーマ がん終末期患者の精神的苦痛の緩和

講師 山形県立鶴岡病院院長 灘岡 俊英先生

テーマ 訪問看護の役割と現状

講師 訪問看護ステーションハローナース 長谷川 典子所長





6月24日(火) 第5回緩和ケア・スキルアップ研修会 (資料6)

テーマ 緩和ケアにおける尿路管理について

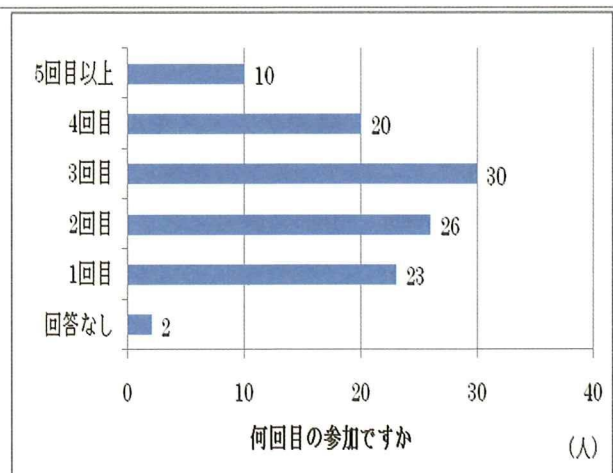
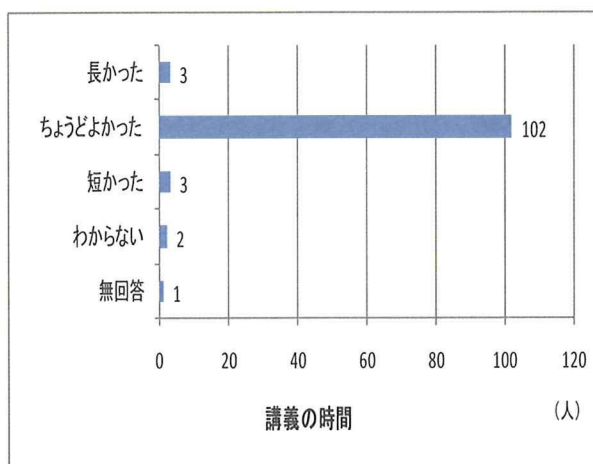
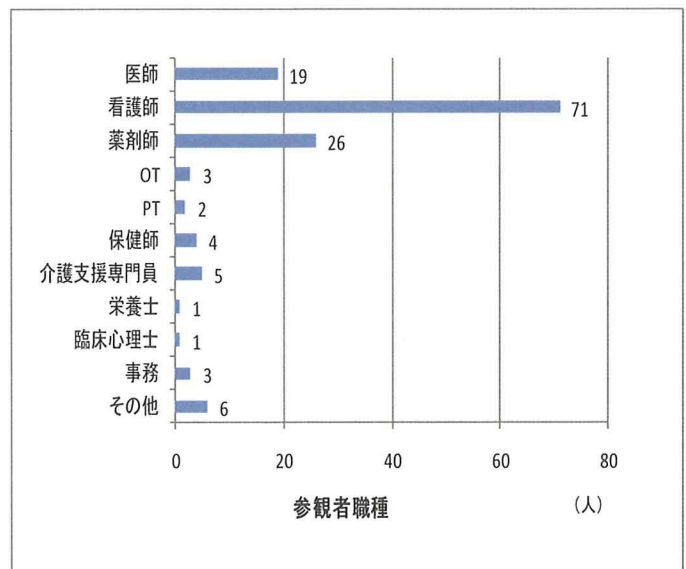
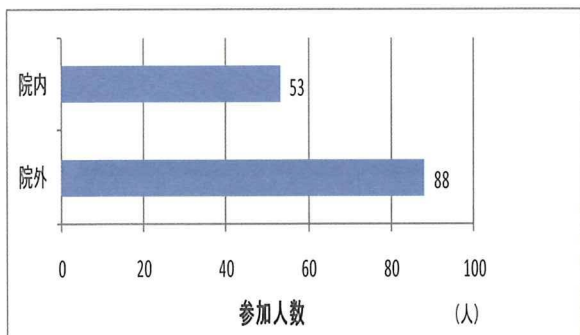
講師 三浦クリニック 三浦 道治 先生

テーマ 腎臓の管理について

講師 荘内病院泌尿器外来看護師 長谷川 いつ 主任

テーマ 緩和医療における形成外科の役割—褥瘡対策と皮膚転移への対処を中心に—

講師 荘内病院形成外科 主任医長 島田 茂孝 先生



7月29日(火) 第6回緩和ケア・スキルアップ研修会(資料7)

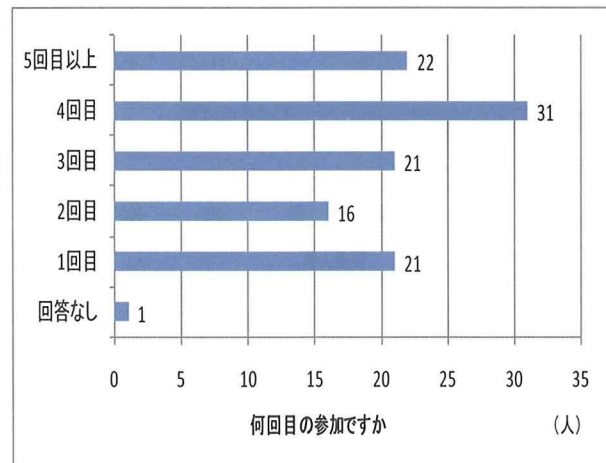
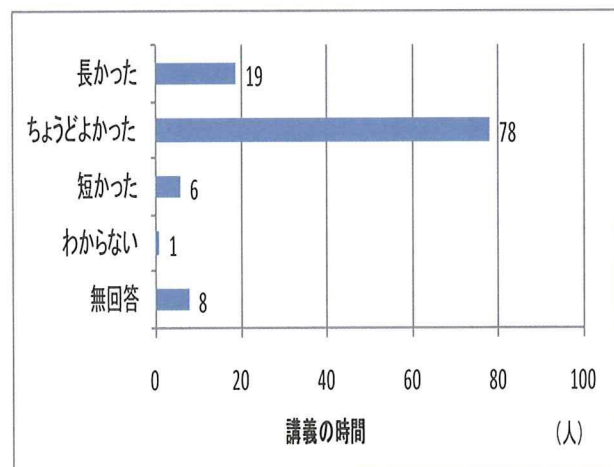
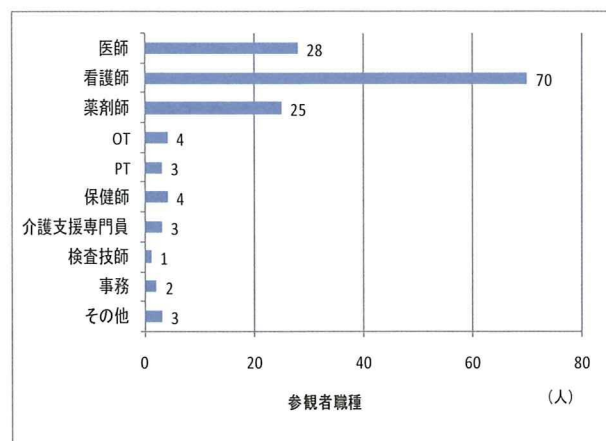
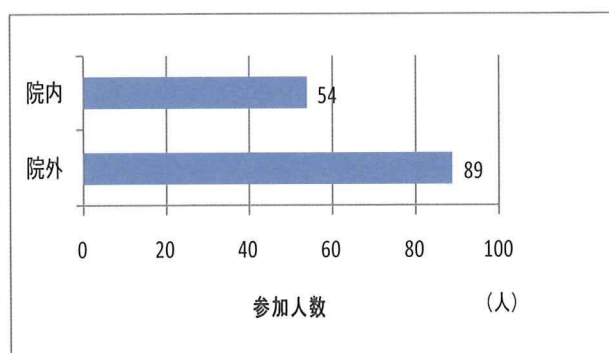
テーマ 終末期の輸液と鎮静 ―ガイドラインを読み解く―

講師 鶴岡協立病院 内科 高橋 牧郎先生

寸劇「荘内病院から我が家へ帰ろう！」

演者 ～あなたの希望をかなえ隊～ (庄内緩和プロジェクト推進委員)

庄内病院 庄内緩和プロジェクト推進委員会一同



8月18日(月) 第7回 緩和ケア・スキルアップ研修会(資料8)

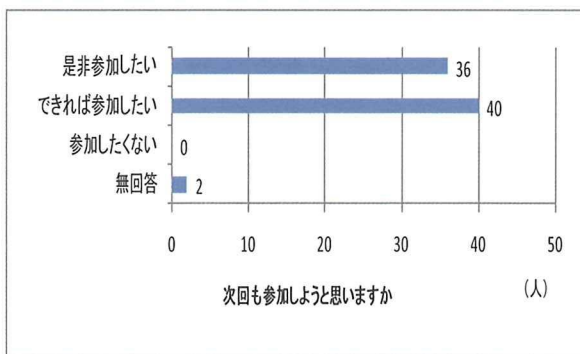
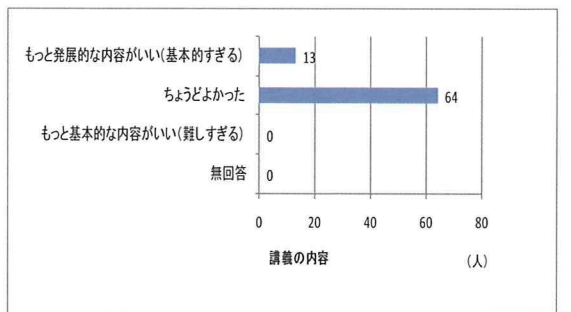
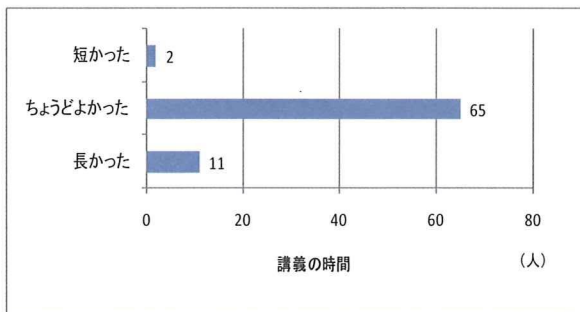
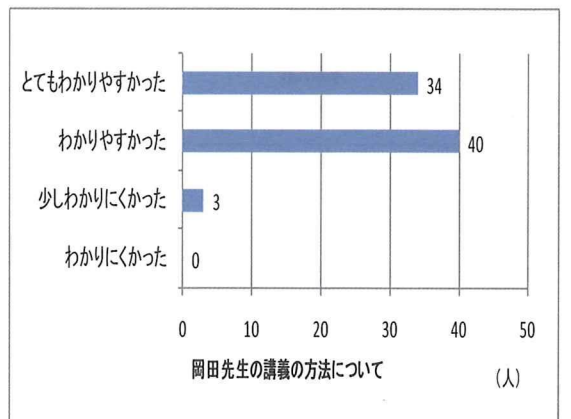
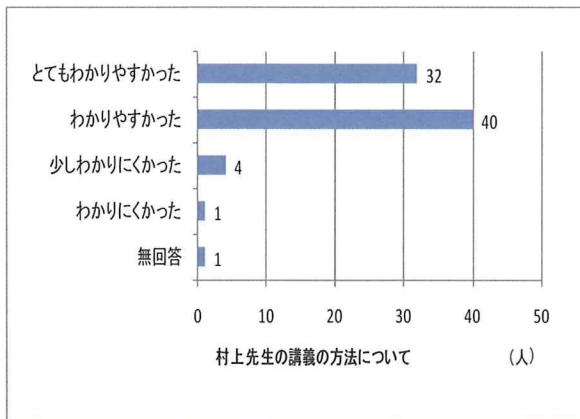
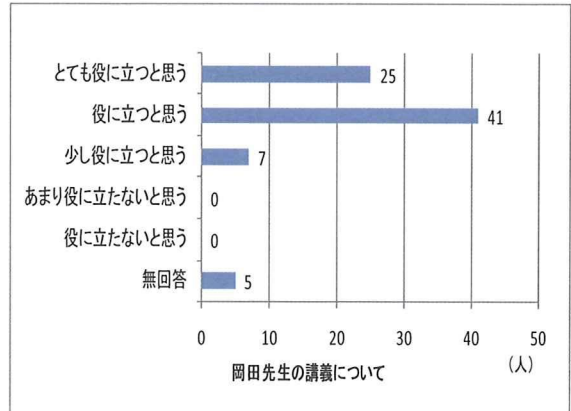
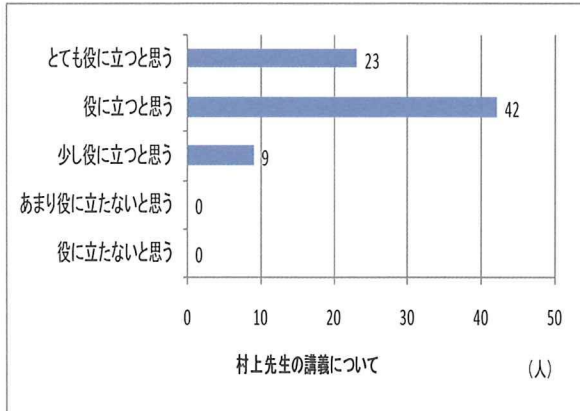
テーマ がん緩和ケアにおける認定看護師の役割

講師 日本海総合病院 相談支援センター 緩和ケア認定看護師 村上 祥子先生

テーマ 在宅主治医としての緩和ケアへのかかわり

講師 岡田医院 岡田 恒人先生

厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業
 緩和ケアプログラムによる地域介入研究
 Outreach Palliative care Trial of Integrated regional Model
 OPTIM Study



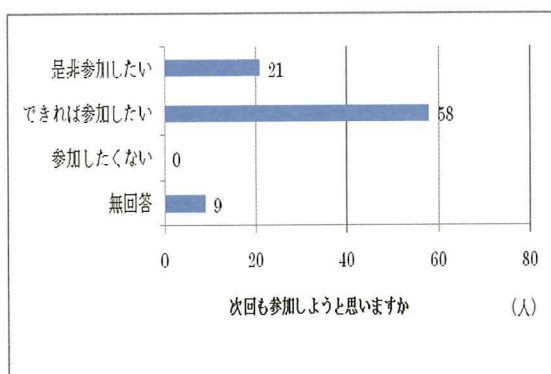
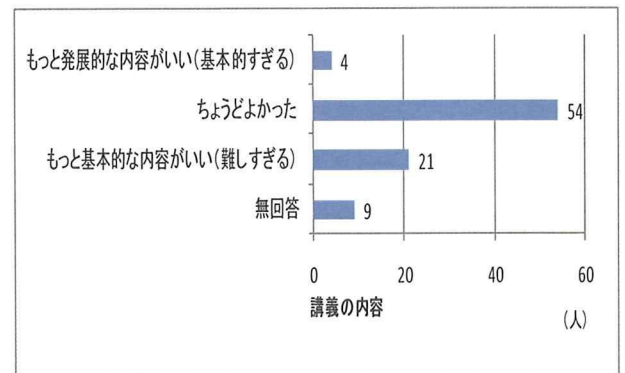
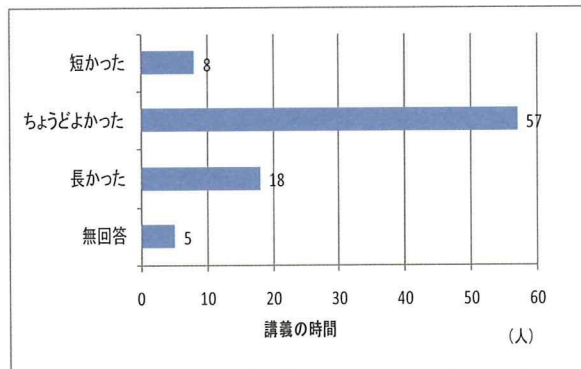
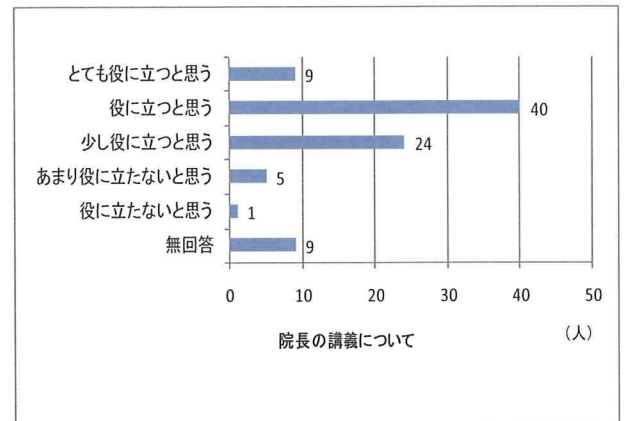
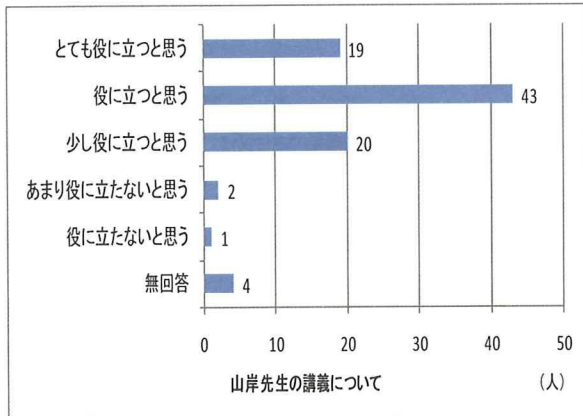
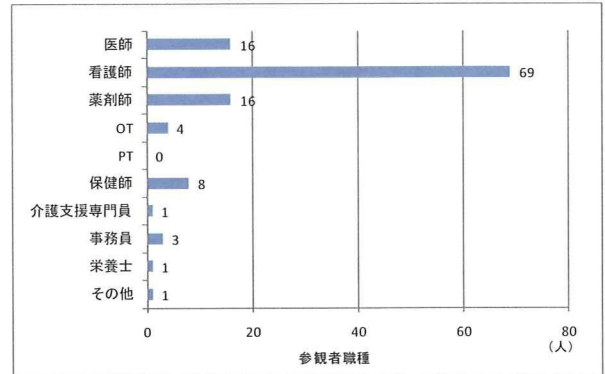
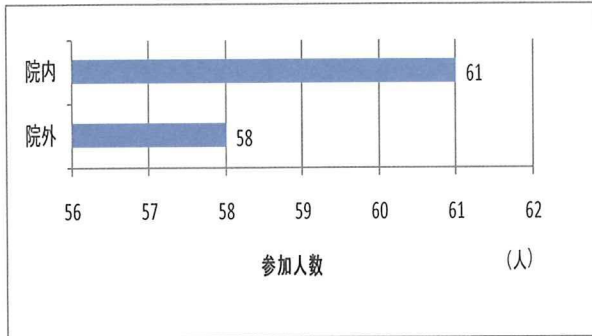
9月29日(月) 第8回 緩和ケア・スキルアップ研修会(資料9)

テーマ モデル地域の緩和ケアプロジェクト進捗状況～地域連携の実際

講師 がん戦略研究推進室研究員(プロジェクトマネージャー) 山岸 暁美 先生

テーマ がん終末期患者の栄養管理について

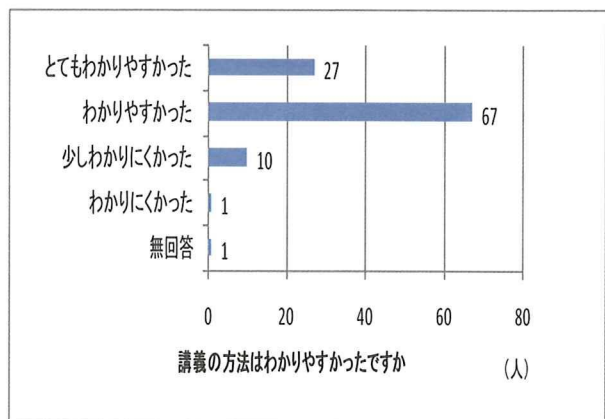
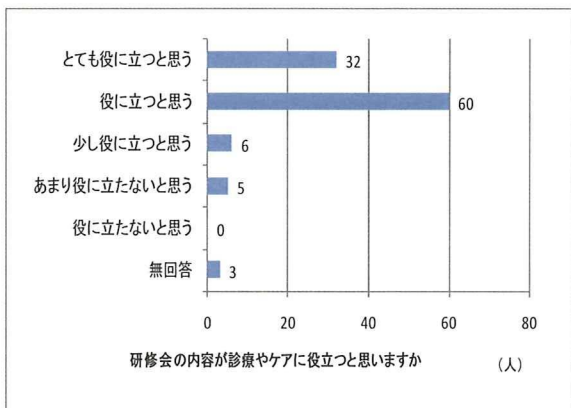
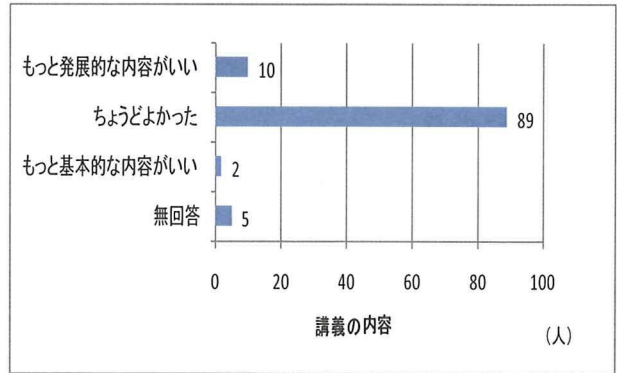
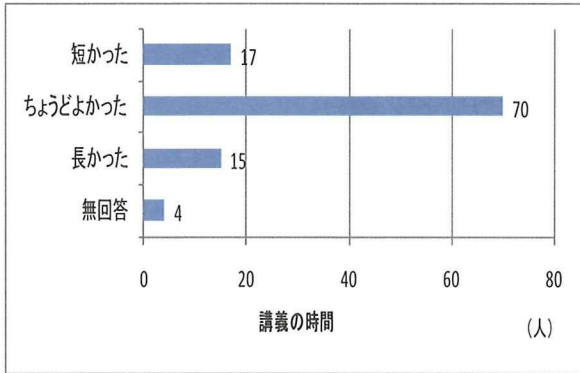
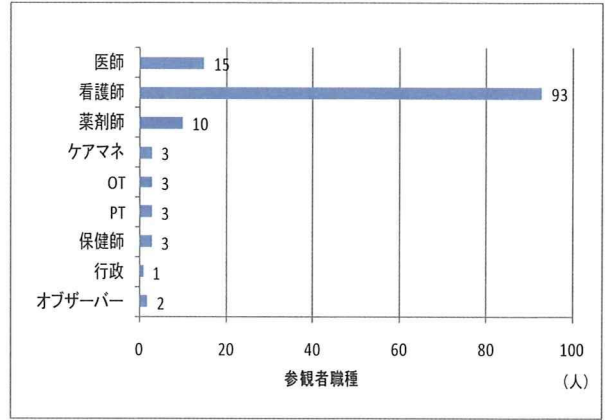
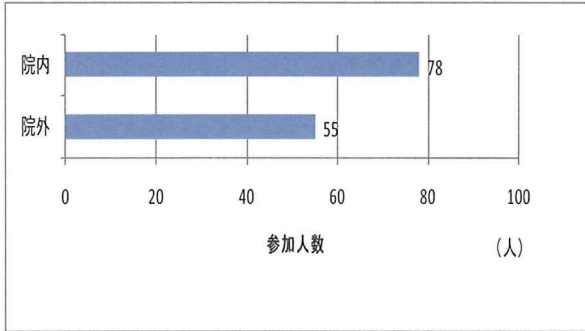
講師 荘内病院 院長 松原 要一 先生



10月28日(月) 第9回 緩和ケア・スキルアップ研修会(資料10)

テーマ がん緩和ケア－事例から学ぶ看護師の役割－

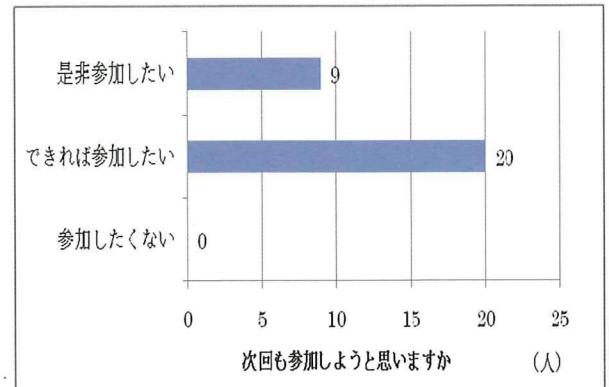
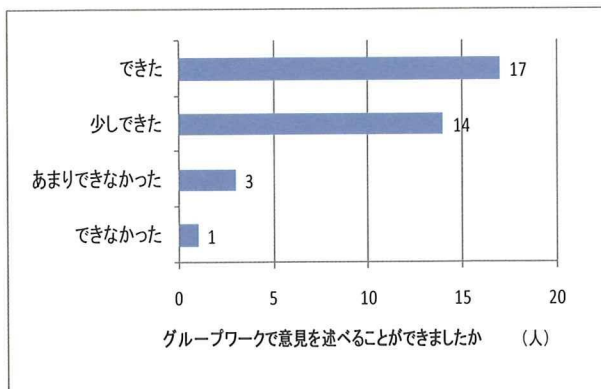
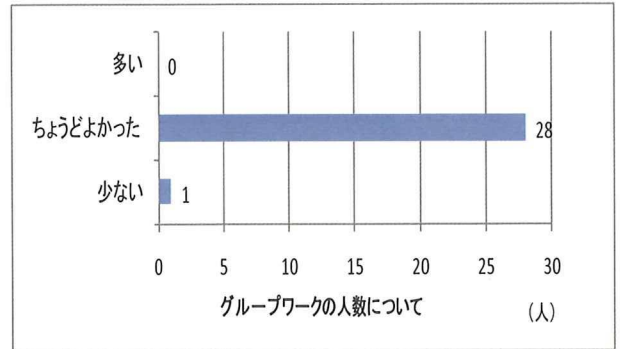
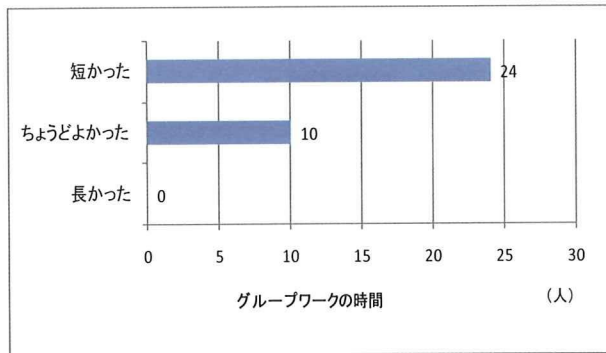
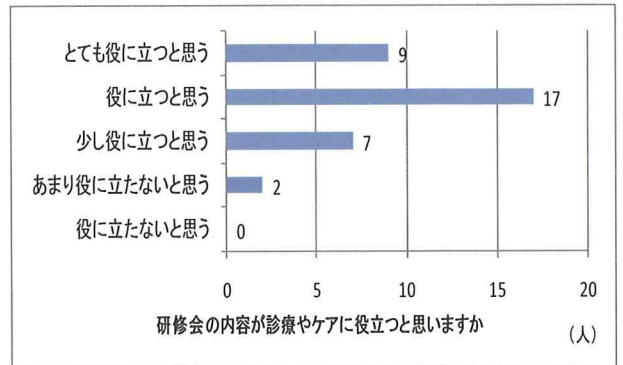
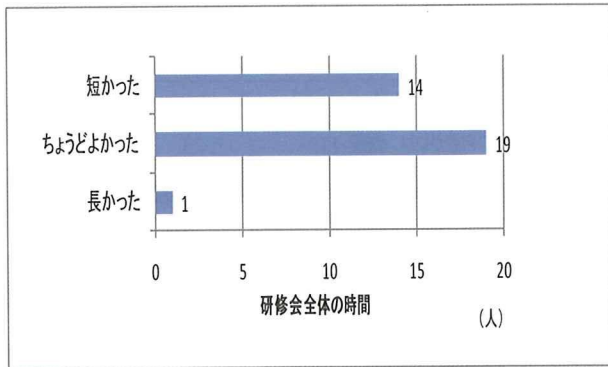
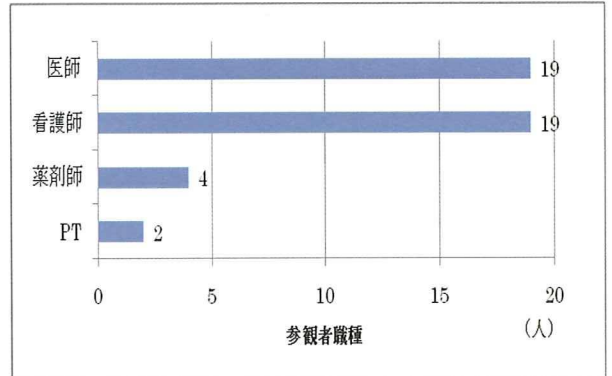
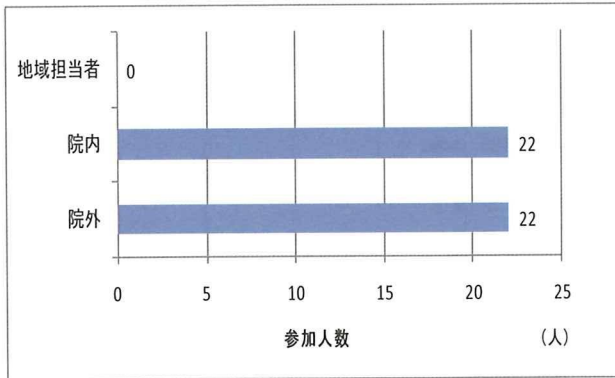
講師 静岡県立静岡がんセンター 看護部長 青木和恵先生



11月26日(水) 第10回 緩和ケア・スキルアップ研修会(資料11)

テーマ 緩和ケアの地域連携の問題点を探る ～グループ討議を通してみんなで問題点を抽出してみよう～

講師 鶴岡市立荘内病院外科主任医長 鈴木 聡 先生

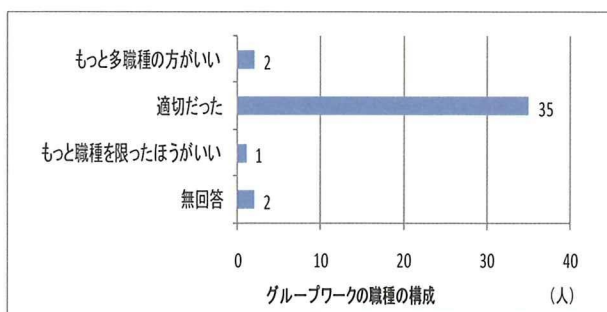
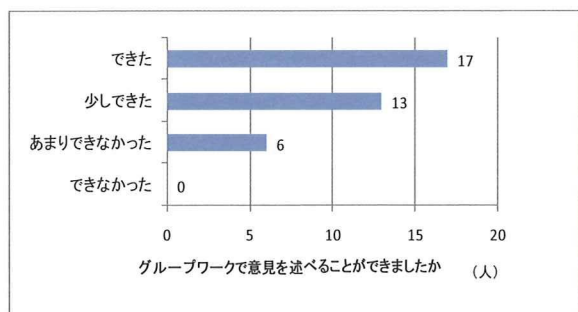
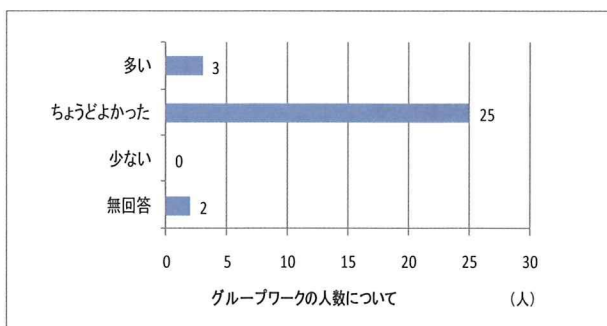
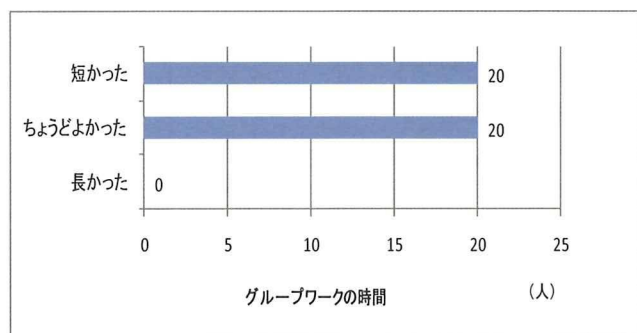
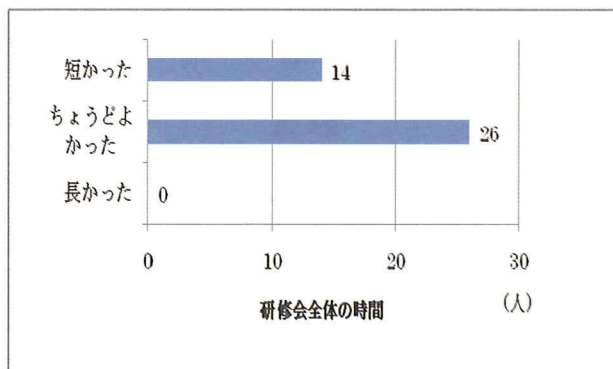
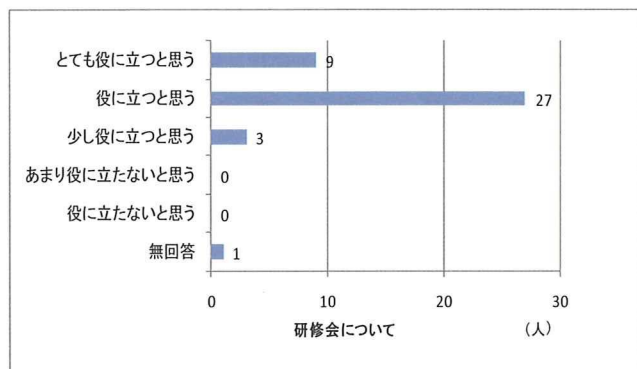
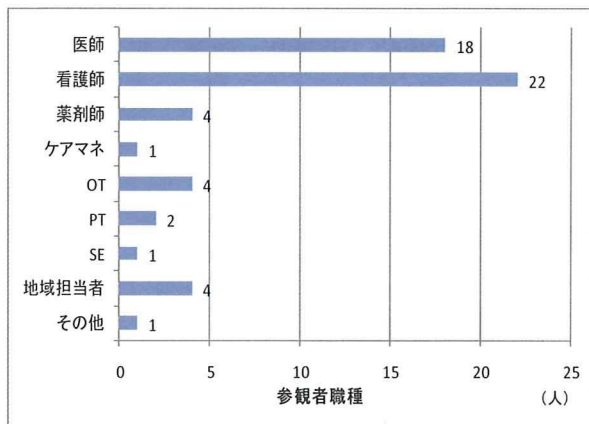
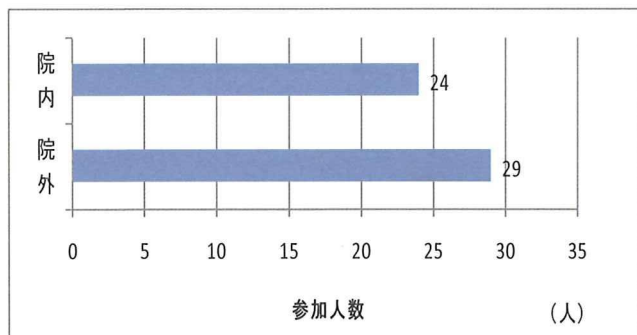


12月19日(金) 第11回 緩和ケア・スキルアップ研修会 (資料12)

テーマ 緩和ケアの地域連携の問題点を探る(2)

～前回のグループ討議で抽出された問題点の解決策を探ってみよう～

講師 鶴岡市立荘内病院外科主任医長 鈴木 聡 先生



1月28日(水)第12回 緩和ケア・スキルアップ研修会 (資料13) 18時30分～20時 荘内病院講堂

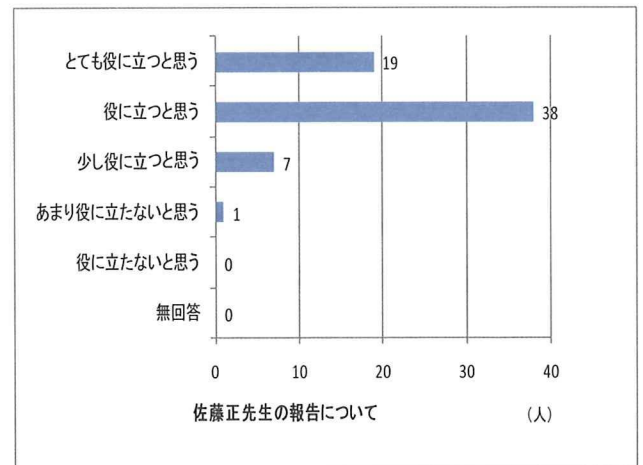
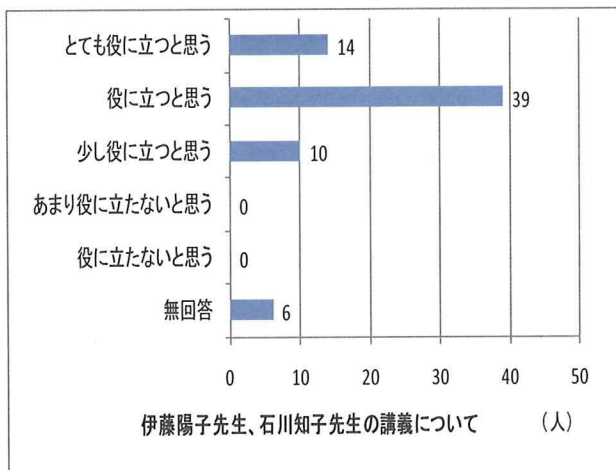
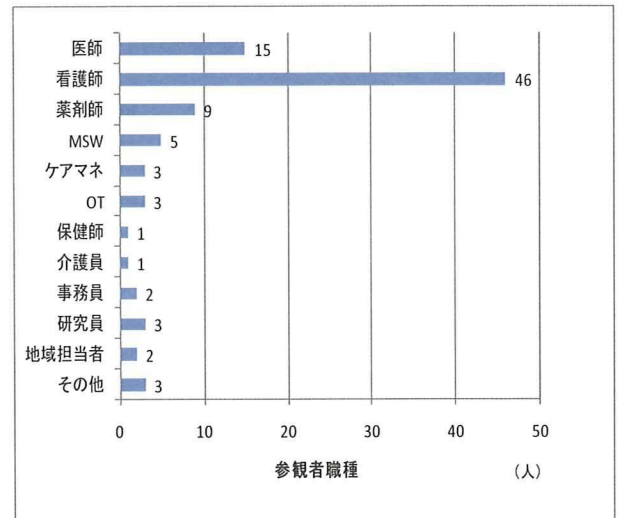
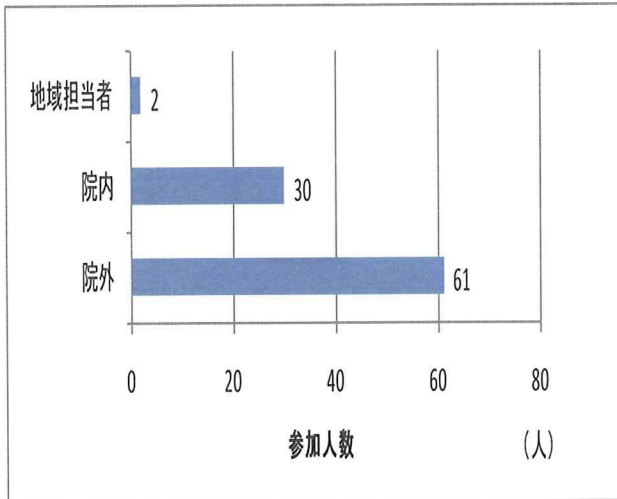
テーマ がんとソーシャルワーク～国立がんセンター中央病院での研修から得たもの～

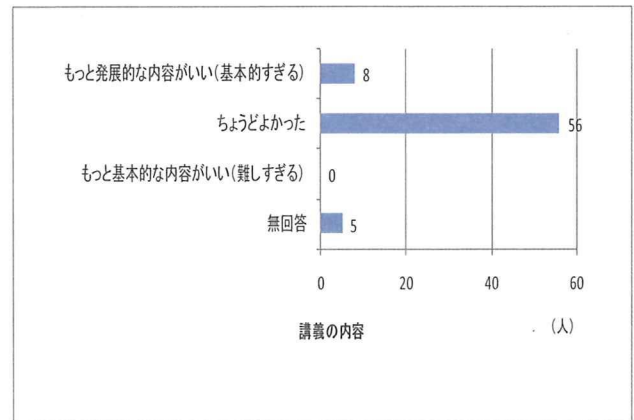
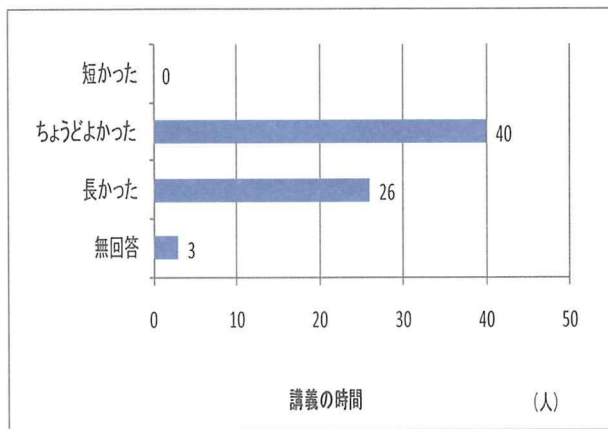
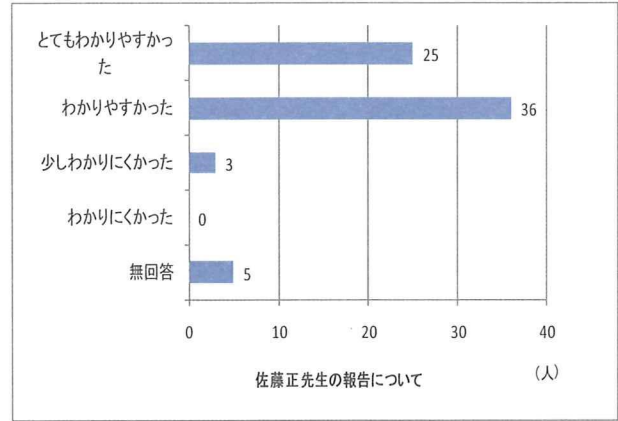
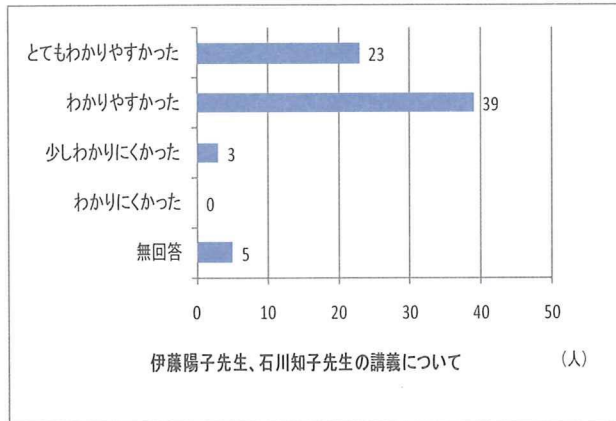
講師 荘内病院地域医療連携室 MSW 佐藤 正 先生

テーマ 当法人における看取りの現状―病棟及び在宅からの報告―

講師 鶴岡協立病院 看護師 伊藤 陽子 先生

訪問看護ステーションきずな 看護師 石川 知子 先生





(2) 考察

20年度は毎月荘内病院の鈴木先生を中心に、その都度研修要望の高いテーマについて研修会を企画した。参加者は講義形式では100～140名であったが、グループ討議・ワークショップでは50名前後と減少していた。参加型の研修会では知識不足のため、質問されるのがいやだとの声もあり、このために参加人数が減少しているとも考えられる。

時間、内容についてはよい評価であったが

■平成21年度 (4月～9月 資料2-1～資料8) 緩和ケアスキルアップ研修会

第1回 2009年4月15日(水) 18時30分～20時 荘内病院講堂

- 対象 : 特に医師、看護師、薬剤師を対象にワークショップ形式 その他の職種も参加可能
- 内容

講義1 「痛みについて」～ステップ緩和ケアに準じた内容～ (資料14) 18:30～18:50

講師 : 荘内病院 外科医長 鈴木 聡 先生

講義2 薬剤についてワンポイントアドバイス 18:50～19:00

講師 : 荘内病院 薬剤師 阿部 和人 先生

ワークショップ 症例検討会 (医師・看護師・薬剤師に分かれてグループワーク) 19:00～20:00

(振り返り/講義後のアンケート結果については資料15参照)

進行は医師からの「痛みについて」ステップ緩和ケアに準じた内容のレクチャーの後に、グループワークを行った。グループ構成は医師・薬剤師のグループを2グループ、看護師・その他の職種は4グループとし、症例についてワークショップを行った。医師・薬剤師は「痛みの薬の処方」について、看護師・その他の職種は「痛みのケア」について学習したが、一研修会で異なったテーマでワークショップを行うには、ワークショップの会場を分けて、職種別のワークショップが研修効果があると感じた。

第2回 2009年5月20日(水) 18時30分～20時 荘内病院講堂

➤ 対象 : 特に医師、看護師、薬剤師を対象にワークショップ形式 その他の職種も参加可能

➤ 内容

講義1「鎮痛剤に関するトピックス」 18:30～18:40

講師 : 荘内病院 薬剤師 阿部 和人 先生

講義2「忘れられない患者さん・家族とのコミュニケーション」 18:40～18:50

講師 : 荘内病院 臨床心理士 柏倉 貢 先生

グループワーク「痛みに関するコミュニケーション—症例から学ぶ—」 18:50～19:50

講師 : 荘内病院 内科医 和泉 典子 先生

多職種グループのロールプレー

(振り返り／講義後のアンケート結果については、資料16参照)

第3回 2009年6月17日(水) 18時30分～20時 荘内病院講堂

➤ 対象 : 地域医療従事者

➤ 内容

講義「終末期患者の輸液管理と持続皮下注射・大量皮下注射について」(資料17) 18:30～20:00

講師 : 荘内病院麻酔科 医師 奥山 慎一郎 先生

(振り返り／講義後のアンケート結果については資料18、資料19参照)

- ・会場の聴講者に意見を問いながらの進行は、聴講者の関心を引き会場と一体となった研修となった。
- ・スライドの中で、持続皮下注射の実際が動画で示され、わかりやすかった。
- ・ポートのモデルを準備したが、実際に練習する時間がなく、練習時間がほしいとの意見があった。

第4回 2009年7月15日(水) 18時30分～20時 荘内病院講堂

➤ 対象 : 地域医療従事者

➤ 内容

講義1「制吐剤に関する薬剤トピックス」(資料20) 18:30～18:40

講師 : 荘内病院 薬局 石川 大介 先生

講義2「嘔気・嘔吐の評価と治療について」(資料21) 18:40～19:40

講師 : 鶴岡協立病院 内科部長補佐 高橋 美香子 先生

(振り返り／講義後のアンケート結果は資料22、資料23参照)

第5回 2009年8月19日(水) 18時30分～20時 荘内病院講堂

➤ 対象 : 地域医療従事者

➤ 内容

講義「終末期の家族ケア 家族への説明・サポートについて」(資料24、25参照) 18:30~20:00

講師：国立がんセンター東病院 緩和ケア病棟 看護師長 関本 翌子 先生

(振り返り/講義後のアンケート結果は資料26、資料27参照)

事例を通しての講義は感心を引くものであった。

第6回 2009年9月16日(水) 18時30分~20時 荘内病院講堂

➤ 対象：地域医療従事者

➤ 内容

講義「呼吸困難の治療とケアについて」(資料28)

18:30~20:00

講師：鶴岡協立病院 内科 高橋 牧郎 先生

(振り返り/講義後のアンケート結果は資料29参照)

第7回 2009年10月21日(水) 18時30分~20時 荘内病院講堂

➤ 対象：地域医療従事者

➤ 内容

講義1「当院における進行期がん患者の在宅療養移行の現状と院内緩和ケアチームの役割」

18:30~18:50

講師：鶴岡市立緩和ケアチーム 和泉 典子 先生

講義2「地域緩和ケア推進のための情報共有ツールの開発と運用：OPTIMstudy鶴岡」

18:50~19:10

講師：三原皮膚科医院 院長 三原 一郎 先生

講義3「鶴岡・三川地区保険薬局における「在宅患者訪問薬剤指導」に関する現状把握と意識調査

19:10~19:20

講師：みどり町薬局 柴田 旬 先生

緩和ケア啓発の寸劇 「あなたが、家族ががんと診断されたら」

19:25~19:55

演者：庄内プロジェクトメンバー

第8回 2009年11月18日(水) 18時30分~20時 荘内病院講堂

➤ 対象：地域医療従事者

➤ 内容

講義1「緩和ケアサポートセンターの関わりから」

18:30~18:40

講師：緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川 佐藤八重

講義2「褥創治療に必要な皮膚の基礎知識」

18:40~18:50

講師：三原皮膚科医院 院長 三原 一郎 先生

講義3「褥創治療の実際」

18:50~20:00

講師：山形県立中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 阿部 安子先生

第9回 2009年12月16日(水) 18時30分~20時 荘内病院講堂

対象：地域医療従事者

内容

「介護老人施設の現状」

「緩和ケアにおけるリハビリテーションの関わり」

講師：聖隷三方原病院 理学療法士 緒方 正美先生

第10回 2009年1月28日(水) 18時30分～20時30分 荘内病院講堂

対象：地域医療従事者

内容

「がん患者の心のケア：がん患者の精神症状の評価とマネジメント」

講師：名古屋市立大学大学院 精神・認知・行動医学

名古屋市立大学病院 こころの医療センター 緩和ケア部 明智 龍男先生

(振り返り)

保険薬局の現状の発表では、保険薬局の受講者が少なかった。(資料30)

寸劇は緩和ケアの流れが理解できるものであったが、今回は対象が医療・福祉従事者だったため、一般市民対象の場合とは会場の雰囲気異なっていた。一般市民から「寸劇を見た」との声が聞かれるなど、緩和ケアの言葉は広まってきている。

表3：緩和ケアスキルアップ研修会に関する緩和ケアサポートセンターの見解

事象	解釈	ノウハウ 解決策
病院職員の参加が少ない (SC看護師)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中の業務が終わらない ・ 院内に指導者がいるのでいつでも聞けるという考えがあるのではないか。 ・ 職種により関心のある内容が異なる。 	各病院で職員のニーズに基づいた研修企画 案内方法の検討が必要
専門性が高く理解しにくかったとの声があった。(アンケート)	対象者がしぼられた研修内容になっていない	職種毎、全体など配慮した研修計画が必要
企画サイドとしては、毎月の開催は準備が大変であった。(SCスタッフ)	担当者が兼務のため、負担に感じた。	企画に基づき、テーマ毎に担当者を決める。
研修会に地域施設のリンクスタッフの参加によって緩和ケアの言葉が多く聞かれるようになった(SCスタッフ)	研修会の参加によって、緩和ケアに対する興味がでてきている。	リンクスタッフを対象とした研修会の開催をする。
医療者は同じ人 福祉施設ではリンクナースだけ、又は交代しながらの参加(SCスタッフ)	福祉施設では、異なったメンバーを選出してくれている。	ケアマネから広く周知してもらおう。
在宅サービスに関係している方は参加しにくい。(アンケート) 他のメンバーの参加までの認識に至っていない。(SCスタッフ)	案内は、リンクスタッフへの案内になっている。	案内の拡充についての検討が必要

(考察)

- ・ 21年度は年間予定を立て進行している。
- ・ 7月の研修からリンクスタッフにも案内した。参加者も多く感心が高かった。
- ・ ワークショップ形式では、ファシリテーターの役割が大きくワークショップの進行に課題があった。
- ・ 全体の問題提起には職種関係なくグループ編成でもよいが、専門分野における課題検討では同職種のグループ編成の方が効果があるのではないか？
- ・ 荘内病院内で開催されているが院内職員の参加者少なく、診療所医師の参加が少ないため今後検討が必要である。

■平成20年度 緩和ケア学習会

緩和ケア学習会の目的 緩和ケアの知識を得る(資料14、15、16)？

学習会の方法 月に1回 時間：17:30～18:30 場所：講堂

11月26日(水) 第1回緩和ケア学習会(資料31)

「入院棟の退院支援・調整とプログラムについて」緩和医療委員 看護師 渋谷美恵
「荘内病院 PCT の活動について」 緩和医療委員 看護師 白峯ゆみ

12月19日(金) 第2回緩和ケア学習会(資料32)

「がん患者への退院調整とその後の経過(事例報告)」緩和医療委員 看護師 富樫清
ディスカッション：外来、入院棟で困っていること等

1月28日(水) 第3回緩和ケア学習会(資料33)

「看護技術の中のマッサージ法」 緩和医療委員 看護師 鈕持朝子

2月25日(水) 第4回緩和ケア学習会(資料34)

「緩和ケアについて考えよう！」 緩和医療委員 看護師 阿部美知子

3月19日(木) 第5回緩和ケア学習会(資料35)

「末期患者の抱えるスピリチュアルペイン」 柏木哲夫先生のビデオ講演
担当：緩和医療委員 看護師 富樫清

■平成21年度 緩和ケア学習会

5月27日(水) 第1回緩和ケア学習会

「痛みについて」 外科主任医長 鈴木聡
「薬剤についてーワンポイントアドバイザーー」 薬剤師 阿部和人
(第1回スキルアップ研修会のDVDによる研修)

6月22日(月) 外来学習会(資料36)

「庄内プロジェクトの取り組みとわたしのカルテについて」担当：看護師 富樫清

7月7日（火）8階入院棟学習会（資料37）

「疼痛評価（STAS-J）について～消化器症状を中心とした評価方法」

麻酔科医長 奥山慎一郎先生

7月17日（金）退院支援・調整講義（資料38）

「退院支援・調整、在宅の視点のある病棟看護」

東京大学大学院医学系研究科緩和ケア看護学教室

慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室

山岸暁美先生

8月28日（金）4階入院棟学習会（資料39）

「緩和医療におけるセデーションについて」

麻酔科医長 奥山慎一郎先生

表4：緩和ケア学習会に関する緩和ケアサポートセンターの見解

事象	解釈	ノウハウ・解決策・今後の対策
開催する時間帯は、仕事を終えて参加できることと学習会終了後に残務ができる（？）時間帯に工夫したが、参加人数が増えない状況である。（SC看護師）	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの中では「学習会に参加して、学習したいと思うが、仕事が終わらなくて参加できない。」「いろいろな病院の学習会が多く緩和ケアの学習会まで参加できない。」 ・緩和ケアに関する興味や学習したい気持ちがあっても、仕事が忙しくて余裕がない現状だと思う。 	・参加人数が増えず、ニーズが低いと判断し中止とした。
各入院棟から、緩和ケアに関する学習会を企画した場合、入院棟に留まらず病院全体に周知するようお願いした。（SC看護師）	学習会テーマは、臨床で困っていること・知りたいこと・疑問に思っていることなので、実践に役立つ印象を受ける。	・各入院棟の緩和ケア看護師、リンクナースが中心となって、学習会を企画していく必要がある。

平成21年度 地域がん症例検討会

第1回 2009年7月21日（19:00～20:30） 荘内病院会議室

参加者：院内医師17名と院外から2名の19名

内容：検討症例は地域診療所から紹介された消化器系悪性腫瘍の3例で、いずれも外科で手術を受けた患者。結果的には、非治癒切除に終わった症例では、今後緩和ケアを含めた早めの病診連携が必要になるかも知れないとの認識を共有できる場ともなった。

また、診療所の先生からは、内視鏡ばかりでなく、透視診断の重要性の指摘を受けた。検討会終了後も、診療所の先生と病院医師との間で、最近紹介した患者の情報交換も個別に行われていた。

第2回 2009年9月15日（19:00～20:30） 荘内病院会議室

参加者：診療所医師1名、地区医師会病理検査技師1名、荘内病院医師22名の24名

内容：地域診療所から荘内病院へ紹介のあった手術例5例、参考資料として術後最終病理診断結果一覧を提示した。

第3回 2009年11月17日(19:00~20:30) 荘内病院会議室

参加者：荘内病院16名(消化器科4名、外科4名、内科1名、呼吸器科1名、病理科2名、研修医4名)、診療所医師1名、荘内地区健康管理センター放射線技師2名の19名

内容：進行乳癌に伴う進行性肺高血圧症の死亡症例、褐色細胞腫の一例、進行胃がんの一例の3事例の検討。

第4回 2010年1月19日(19:00~20:30) 荘内病院会議室

参加者：荘内病院17名(消化器科4名、外科4名、婦人科3名、病理科2名、研修医2名、内科1名、保健所1名、プロジェクトマネージャー1名の25名

内容：4例の症例検討を行った。

緩和ケアミニレクチャー 講師：内科・緩和ケア医 和泉 典子先生

表5：地域がん症例検討会に関する緩和ケアサポートセンターの見解

地域がん症例検討会		
事象	解釈	ノウハウ・解決策・今後の対応
今後病診連携が必要になる患者の情報共有の場になっている。診療所医師と病院医師との間で、最近紹介した患者の情報交換を個別に行っている。(鈴木医師)	・診療所医師は、紹介した患者のその後の状況に興味があると思う。	・今後も継続する予定でいる。
診療所医師の参加が少ない。(鈴木医師)	・診療所医師の関心が低い？ 診療所終了してからの出席なため気が進まない？	・開催してから間もないので、もう少し様子を見ていく必要がある。

(考察)

地域診療所医師、地域病院医師、荘内病院医師にメール、FAXで周知している。

企画は荘内病院医師が行い、診療所から紹介された事例をピックアップし資料作成まで行っている。医師のスキルアップ研修会への参加は少ないが、医師の関心が高く、この地域がん症例検討会への参加人数は多くなっている。また、地域の医師の参加が少なく周知を含めた検討が必要である。

■5/22 長崎の先生より指導

OPTIM、地域連携促進班の企画で、あおぞら診療所の川越先生、長崎の白髭先生、出口先生、吉原さんが鶴岡を訪問。Net4Uの視察、在宅に携わっている方々との座談会、患者宅へ同行しての指導・助言、緩和ケアチーム、サポートセンターとの意見交換、地域連携をテーマとした講演会、さらには両日の懇親会と、極めてタイトなスケジュールのもと、精力的な交流が行われた。



2 がん患者・家族・地域住民への情報提供

1) リーフレット・冊子・ポスターの配布・掲示

- 2008年4月

協力を得られた機関にリーフレット・小冊子の設置をした。行政は、まず本庁舎に説明に行き、本庁舎から支所に連絡してもらい、協力を得た。設置機関数は、コミュニティーセンター：21カ所、市役所・庁舎：11カ所、公民館 25カ所、公共施設（体育館・福祉センター）43カ所、病院関係 4カ所、診療所 23カ所の計132カ所であった。

ポスターは、コミュニティーセンター：21カ所、市役所・庁舎：11カ所、公民館 25カ所、公共施設（体育館・福祉センター）43カ所、病院関係 9カ所、診療所 94カ所の計203カ所から掲示の協力を得た。

- 2008年10月

リーフレット・小冊子・ポスターの掲示・設置の協力機関で承諾を得た19機関に訪問し、設置状況のヒアリングを実施した。結果は以下の通りである。ポスターに関しては、「字が小さい」「内容が難しい」などの市民の反応があるとのことだが、リーフレット・冊子に関しては、特に問い合わせや質問もなく、関心は低いようだとの窓口担当の話も聞かれた。また自分の身に降りかからないとアンテナが立たない種類の情報なので、設置場所としてコミュニティセンターが妥当なのかという話もあった。

厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業
 緩和ケアプログラムによる地域介入研究
 Outreach Palliative care Trial of Integrated regional Model
 OPTIM Study

表6: リーフレット・冊子・ポスター掲示・設置場所へのヒアリング結果

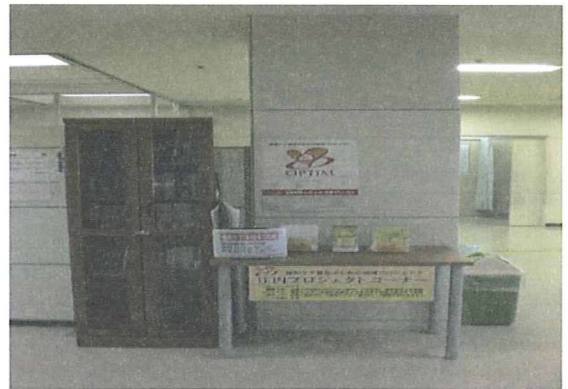
施設名	リーフレット	冊子	啓発ポスター	冊子・リーフレット立て	増数希望	市民、施設の意見 その他
第三コミセン	残50部 受付カウンターに設置	残20部 受付カウンターに設置	3階階段踊り場に掲示	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望なし	市民、施設の意見 その他 市民の問い合わせ等はなし。リーフレット、冊子をもって行く人はいない。
市役所	残30部 1階総合案内に設置	残5部 1階総合案内に設置	健康課の受付 カウンターに掲示	リーフレット立てなし 冊子立てと一緒に入ってる	希望有	健康課にもリーフレット、冊子の設置を希望している。 送付は総務、健康課それぞれに送る。 市民の声、問い合わせ等はなし
第1コミセン	残35部 1階ロビーパンフ置場に	残11部 1階ロビーパンフ置場に	1階ロビー掲示板に	リーフレット、冊子両方の立 てなし。	希望有	市民の声、問い合わせ等はなし
斎コミセン	残30部 受付カウンターに設置	残17部 受付カウンターに設置	玄関ロビー掲示板に	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	ポスターの字が小さい。リーフレット、冊子も漠然としていて、だから何とってしまう。 市民の声、問い合わせ等はなし
第4コミセン	残30部 受付カウンターに設置	残15部 受付カウンターに設置	玄関ロビー 2階に掲示	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	市民の声、問い合わせ等はなし
大山コミセン	残30部 窓口カウンター、 情報コーナーに設置	残15部 窓口カウンター、 情報コーナーに設置	掲示なし。	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	市民の声、問い合わせ等はなし 老人センターにも設置、掲示したいとの希望あり、2か所分送付希望
三川町役場	残30部 健康係カウンターに設置	残20部 健康係カウンターに設置	1階ロビー掲示板に	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望なし	住民広報等に緩和ケアの進捗状況等を載せると啓発に繋がると思う 荘内病院を退院した人が緩和プロジェクトを知らない
三川町公民館	残20部 1階渡り廊下窓際に設置	残10部 1階渡り廊下窓際に設置	1階渡り廊下に掲示	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	市民の声、問い合わせ等はなし
庄内保健所	残15部 相談スペースに設置	残8部 相談スペースに設置	入口掲示板に	リーフレット立てなし 冊子立てなし	希望有	市民の声、問い合わせ等はなし
藤島庁舎	残30部 玄関ロビーパンフ置場に	残20部 玄関ロビーパンフ置場に	2階総務課カウンターに	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望なし	市民の声、問い合わせ等はなし
藤島社協	残10部 1階ホール棚に設置	残4部 1階ホール棚に設置	窓口カウンターに掲示	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	市民の声、問い合わせ等はなし
温海庁舎	残30部 市民談話室に設置	残30部 市民談話室に設置	市民談話室に設置	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望なし	自分の身に降りかからないと関心がわかないのではないか 市民の声、問い合わせ等はなし
温海ふれあいセンター	残なし	残なし	掲示なし。	なし なし	希望有	リーフレット・冊子・パンフレットの残なし。届いていたかも不明
朝日庁舎	残40部 1階ロビーパンフ置場に	残30部 1階ロビーパンフ置場に	なし	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	市民の声、問い合わせなし
朝日健康福祉期	残10部 受付窓口カウンター	残5部 受付窓口カウンター	受付付近掲示板	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	勤めても地域性があり当地域では対応できるか不安で話せない。 市民の声、問い合わせ等はなし
羽黒庁舎	残40部 玄関ホールカウンター	残20部 玄関ホールカウンター	玄関ホール掲示板	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望なし	市民の声、問い合わせ等はなし
羽黒コミセン	残10部 受付カウンター	残5部 受付カウンター	受付カウンター	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	市民の声、問い合わせ等はなし
櫛引庁舎	残50部 1階ホール棚に設置	残30部 1階ホール棚に設置	玄関掲示板	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望なし	市民の声、問い合わせ等はなし
櫛引ユータウン	残5部 玄関ホール	残なし 玄関ホール	渡り廊下 玄関ホール	リーフレット立て有り 冊子立て有り	希望有	市民の声、問い合わせ等はなし

【リーフレット・小冊子設置状況】

- 三川町役場



- 協立病院



【ポスターの掲示状況】

- 荘内保健所



- 荘内病院



- 協立病院



- 第3コミセン



(2) 考察

- 2009年4月

荘内病院内の各階エレベーター搭乗口コーナーに、リーフレット、冊子を設置。又協力を得られた入院病棟のナースステーションにも設置。定期的に補充、設置状況の確認を実施。

- 5月

昨年度より設置のお願いしている施設には引き続きお願いしたい旨を電話にて、設置状況、住民の声の聞き取りを実施

緩和ケアに対する地域住民の意識はなかなか向上していない。

表7：緩和ケアサポートセンターの見解

リーフレット・冊子・ポスターの配布・掲示		
事象	解釈	ノウハウ・解決策・今後の対応
荘内病院内エレベーター搭乗口に設置、定期的に補充、点検を行っている。(研究員)	出来るだけ多くの人に啓発出来るように、人の出入りがある場所に設置した	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回の割合で補充をしているが、階によって減り方が違う。 ・ 一律ではなく需要に応じた対応が必要
ナースステーション受付に設置(研究員)	患者に面会時、必ず立ち寄る場所として設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科によって減り具合が違う。 ・ 医師・看護師の意識と考え方で差がでている。 ・ 職員への意識付と啓発を行う
外来中待ち合いにも設置(研究員)	担当の医師、看護師の協力が得られた科に設置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緩和担当の医師がいる科は患者への啓発が進んでいる。
21年度より福祉施設、居宅介護支援事業所にも掲示と配布を依頼(主幹・研究員)	リンクスタッフとして協力を得られた事業所、施設にお願い出来た。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は協力機関を増やし啓発出来る機関を多くしていきたい。
コミセン、公民館では相変わらず冊子、リーフレットがはげず住民からの反響もほとんどない(コミセン職員)	ポスターは21年度版は字が大きく分かりやすくなったが、冊子、リーフレットは市民の興味をそそるものになっていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の目線に立った地域独自の啓発紙が必要と思う。

2) 映像メディアの視聴

- 荘内病院：ロビーに視聴コーナーを設け、毎日放映している。
- 協立病院：患者ベッドサイドの院内TVの9チャンネルを独占し24時間配信することにした。また皮膚科前待合廊下にTV設置し放映するようにしたが、診察中うるさいと苦情がでて撤去した。場所を附属クリニック待合室に移し、放映中である。組合員の会合で放映し、感想についてアンケートを実施した(各種研究報告p〇参照)また市民公開講座の際にも必ず放映するようにした。

■2009年

荘内病院：4月より昨年度の反省も踏まえて、放映時間の延長を実施。午前9時～午後4時までとした。しかし患者は各診療科の待合にすることが多く、放映コーナーにてじっくりと見ている人は少ない。

3) 図書(緩和ケアを知る100冊)の設置

協立病院のロビー、荘内病院ロビー、医師会検診センター、からだ館(慶応大学)の4箇所に設置した。医師会(健康センター設置分)は、なかなか閲覧されないため、市立図書館に移管した。からだ館では、貸出可能にして対応するようにした。

- 「緩和ケアを知る100冊」への患者の声

厚い本は読めない / 暗い話は嫌だ / あまり近い身内だと、読む余裕がない
 誰向けの本なのか、どんな時に読んだらいい本なのかがわかるともっとよい。